２０２３年度　教育課程編成委員会
報告書

学校法人日産学園　専門学校

日産栃木自動車大学校

2023 年度　第 1 回目　教育課程編成委員会
開催記録

1．日時、場所

2023 年 7 月 19 日（水）14：00～16：15

日産栃木自動車大学校　第一会議室

2．参加委員

外部委員	菅野　好一	栃木日産自動車販売（株）営業本部　アフターセールスグループ課長
	友善　直樹	日産プリンス栃木販売（株）営業本部 営業支援グループ課長
	木村　俊宏	（株）茨日ホールディング　人財開発部　教育グループ　係長

※欠席　青柳　洋平（栃木県自動車整備振興会　教育技術部　教育課課長）事前に書面で意見受領

※7 月 25 日議事録説明実施。内容了承済み。

内部委員	中村　光之	日産栃木自動車大学校　校長
	櫻井　廣行	同上　教頭
	高橋　　真	同上　教育課長
	渡辺　　禎	同上　教務課長
オブザーバー	玉生　久典	日産・自動車大学校　教育企画部　部長代理

3．会議次第、議題

1）校長挨拶

2）委員紹介

3）校内視察

4）各課題について論議

（1）2022 年度 国家（登録）試験 受験結果報告と本年度の資格取得の取組

一級、二級国家試験結果の報告および、本年度の主要な取組について論議。

（2）卒業生に関するアンケート結果報告 （22 年 4 月 日産販社入社卒業生）

2022 年 4 月日産販社入社の卒業生及び業務指導担当者を対象に実施したアンケート結果の報告と、アンケート結果からの取組について論議。

（3）国際自動車整備科の運営状況

整備の学習に必要な日本語能力向上の取り組みについて論議。

（4）スポーツメカニクス科の取り組み

スポーツメカニクス科単年度課程への変更の報告。外部企業とのコラボレーションによる授業の実施と今後の取り組みについて論議。

（5）ICT 活用授業の取り組み報告

ICT 活用授業本格稼働 2 年目の取り組み状況（授業活用方法の変化、業務効率化）の報告と課題について論議。

4．配布資料

上記各課題についてそれぞれ資料あり。

以上

議事録

（１）２２年度 国家（登録）試験 受験結果（櫻井）

【一級】 筆記･口述共に全員合格。

加えて、昨年の口述不合格者 7 名も今年合格。

昨年コロナ対応で実施しなかった JAMCA 統一試験も受験し、ICT で導入したクラスルームも活用し、個人の学びをフォローする事が出来た。

【二級】 全員が資格取得（G,D 別では、G で 1 名不合格）

4 月から、二級の過去問に手を付け、〇✕の過去問題を 12 月に終了させ、1 月より 4 択問題に移行するなど、フォローを充実させ、成果を上げた。 次年度、留学生が増えることに対しては、愛知校が今回多数の留学生を合格させているので、既に調査は終えており、今年度の受験勉強計画に折り込んで行く。

①論議

青柳委員）国家試験の結果は素晴らしい。次年度留学生増に対し、ICT が活かされて好成績に繋がることを期待している。**（青柳委員の意見は事前に受領したものを渡辺代読。以降同じ）**

菅野委員）留学生の間で日本語の差がついた際は、どう対応するのか？

高橋）国際科 1 年は別にして、整備科段階に入った学生には、全体として特段の対応をしていない。ひどく低位の学生を個別にフォローする。

中村）愛知校でも、最底辺の学生は徹底的に、過去問題を繰り返し復習させるしかなかった。当校も、同様か。
現在、国際科 1 年では、日本語学校の教員を講師に入れていて、日本語力の向上を図っているが、やはり留学生間に日本語力の差があり、講師も苦労している。

菅野委員）今年入社のベトナム人は、入社時片言だったが、少ししたら、非常に上達。方や中国の人で会話がおぼつかない人もいる。

高橋）個人別の特性も影響が大きい。

櫻井）そちらでお世話になっている中国人は、文言の理解は早いが、会話は不得意であった。

菅野委員） R9 年からの国家試験制度改定への対応は、どうなるのか。

渡辺）教科書の改変は、これからで内容は不詳。簡素化されるという話だが、内容は不明。
3 級が出てくると、様子が少し見えるかもしれない。今後もアンテナを張って、内容が見え次第対応していく。
二級は、ＧＤの一体化、27 年 3 月の最初の試験については、大きな壁だと考えている。

木村委員）一級の口述試験で昨年度不合格の 7 名は、今年の特訓に参加したのか？

櫻井）就職先に了解を得て、特訓に参加。

木村委員）留学生で、ガソリン不合格の学生への対応はあるのか？

中村）ＧＤ両方落とした学生へは、対応を考えるが、いずれか合格すれば、資格取得者としてフォローはしない。

友善委員）留学生 32 名は、多いのか、コロナ前と今で日本語のレベルは違うのか

中村）Ｎ４レベル程度で入学してくる学生が多い。急に入国が増えたので一時的にレベルの低い学生も混在。
この数年、同数程度の学生が入学したが、現在は、多数の入学希望の留学生がいるため、一括して判定して、日本語力のある留学生を入学させたい。（今年は留学生を選ぶことができる）
しかし、留学生増の波は、いつまで続くかは不明。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

・整備士新資格制度への対応状況報告

（２）卒業生に関するアンケート結果報告　（２２年４月 日産販社入社卒業生）　（櫻井）

202２年４月日産販社入社の卒業生及び業務指導担当者を対象に実施したので結果を報告。

業務指導担当者による評価

一級は全体が向上して良い評価をいただいている。二級は、全体的に評価が下がっている。

卒業生自身の声

概ね、指導担当者による評価と相対した結果が出ている。（故障診断等）

思った以上に、やりがいをもって、仕事に取り組んでいる姿が見える。

①論議

青柳委員）合格率が高かった年は、アンケート結果も高評価に見えます。ルーブリック評価も取り入れられ、良い人材が育つと期待している。

菅野委員）整備要領書（ESM）はとりいれているのか？EPC も使うのか？

※EPC：エレクトリック・パーツ・カタログ　※ESM：エレクトリック・サービス・マニュアル

櫻井）ESM は使う。EPC も工学科で使っている。

渡辺）ESM は班に 1 台くらい使える。EPC も限定された PC ではあるが常時使える状態にはなっている。

友善委員）工学科の自主性主体性の取り組みは整備科もあるのか？

櫻井）整備科ではやっていない。躾面を中心に取組んでいる。

友善委員）一級と二級を比較すると基本的な部分（人と面談する等の姿勢、態度など）に差があると感じる。

中村）栃木校のウィークポイント。昔のように躾けることは難しいが、各場面の態度等を指導していく必要を感じている。整備科では、まだその指導が不十分だと感じている。

このアンケートは、販社に就職した人だけで、全員ではなく、母数の少なさから、その時に対象となった学生の傾向が大きく反映されてしまう。そのあたりも勘案する必要がある。工学科、整備科の差は、いずれにしろ歴然とあるので、整備科の対応が必要。学校としては、社会人としての常識を知らない学生に、それをきちんと教えることが必要だと考える。それが、学生が社会人になった時に恥をかかないことに繋がる。

友善委員）会社でも入社後、少しずつ教えてきて、変化が見えてくる学生もいる。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

・対応力日常業務について、あらためて生活面の指導に力を入れて行く。（整備科）

・工学科については 22 年度の取り組みを踏襲して継続していく。

（３）国際自動車整備科の運営状況（髙橋）

国際自動車整備科も 3 学年がそろった。1 年 29 名、2 年 15 名、3 年 18 名

23 年４月の入学は、スリランカ、ネパールが多かったが、２４年に向けては圧倒的にスリランカになりそう。

日本語能力向上のため、日本語学校の教員に週 2 回、日本語授業を実施（基礎自動車工学のテキスト使用）

国際科担当の教員が言葉を教えるプロ（日本語講師）から学ぶことも多い。

次年度、入学生も 50 名程度になり、日本語教育が更に難しい課題になる為、対応を検討中。

①論議

青柳委員）SPM 科のように、国内で働いている卒業生の協力（語学や生活や学習方法等のアドバイス）が得られたら良いのではないか。

菅野委員）留学生のＴＳに聞くと、カタカナが苦手という話を聞いたが。※TS：テクニカル・スタッフ（整備士）

中村）国によって、傾向は違う様子。漢字が一番難しいという人が、当校としては多い。特に読み（意味含め）。
現在の入試（自動車整備のテキストの音読）では、読みのレベルが判定できない。
今後は、一般的な漢字、カタカナの読み、意味の理解を確認できる試験として、なるべく正しい日本語の読みの判定につなげたい。
国によっても、英語ができる出来ないとか、それにより、カタカナの文字がわかるわからない、等様々な留学生が入学している。また、留学生は就職について賃金、手当にシビアで、処遇のよいトヨタ販社とか、福利厚生が充実した企業を狙う傾向がある。この傾向が広がって、少数の企業に就職希望が増えることを懸念している。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

・外部講師による授業の状況報告（効果等）

（４）スポーツメカニクス科の取り組み　（髙橋）

・スポーツメカニクス科は、S 耐久、軽耐久に参画している。

・FY24 入学者から、当科は、柔軟かつ適宜に授業内容の変更ができるように整備科 2 年間卒業後の 1 年課程となる。

・来年度には「しのいサーキット」閉鎖による軽耐久レースの継続ができなくなるので、S 耐久とコラボした授業や BP、溶接をインターンシップとして企業にてプロから学ぶ授業、カートレースへの参戦など検討している。

①論議

青柳委員）メディアへの露出を増やしていくと聞いて学生の確保に期待が持てる。

木村委員）新たな資格取得はあるのか？せっかく、1 年やるなら、何か取得できればいいと思うが。

高橋）特にない。

中村）本当は何かしら資格を取らせたいが、今迄の検討では良いものが浮かばない。
逆に取得した方がと思う、資格はあるか？

木村委員）直ぐには思いつかないが、何かしら取得できると学生の満足度もあがる。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

・しのいサーキット閉鎖への対応検討結果の報告

・SPM 科在籍中の取得資格検討結果の報告

（５）ICT 活用授業の取り組み（渡辺）

今年から、ほぼ全学生が持っている状態になった。授業資料の配布や、動画の閲覧、電子資料を用いた授業の実施、履修試験の実施などに活用している。学生の理解度向上、教員の業務効率化策として、活用が進んでいる。
従来、教員側のスキルによる活用度にばらつきがあったが、使ったものを共有化するなど、次のステップに進んでいる。
今年度、先生方の使い方も、従来の授業時間外の活用が、授業資料を PC に配付する、それに書き込ませるなど授業時間内の活用に変化している傾向がある。また、学生個人が PC にて補講の管理ができるような事も始めている。

①論議

青柳委員）出欠状況確認、連絡事項にも使え、ますます便利と感じた。しかし、全教員が活用できるようにしなければいけない苦労も感じる。

菅野委員）学生の負担はいくらなのか。色々機能拡張できるのか？

渡辺）1 台 57000 円（在学中の保証付き）、授業で使うアカウントでは、学生が勝手に機能拡張をできない設定としている。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

・授業計画への ICT 使用明示状況の報告

・コンテンツ共有状況の報告

４）全体を通じて

菅野委員）実技は、1 人 1 人やっているのか（どこかで試験をグループ？で受けていると聴いた）

渡辺）基本 1 人ずつ試験を行っている。グループでやるものも中にはある。

中村）他校の卒業生と比較して、自分の学校の卒業生のレベルがどうなのか、ということが良くわからないので、教えてほしい。

菅野委員）近年、従来に増して、学校と密な関係にある。それもあるのか、他校より、卒業生はしっかりしているように思う。

中村）各販社さん、総じて、栃木校の学生さんがいいとは言ってくれるが、本当は、違うのではないのか。

木村委員）茨城は、水戸、つくばなど、いろんなところからくるが、一番は水戸の県立（即戦力としての速さも、礼儀もきちんとしている）だが、入社してこない（トヨタやスズキに流れる）同等で、土浦の県立。

中村）栃木県でも県立は人気もあり、いい人が集まると言われる。

木村委員）私は 19 期で非常にしつけに厳しかったころの卒業生である。同じ事が出来ないということもわかるが、工具の上に座るとか、髪型のおかしいところなどの基本的なところは指導するべきと思う。

櫻井）栃木校の課題として受け止めている。今後、対応していく。

今年は、販社ＴＳ授業を早めにお願いし、学生の就職先を決める参考にさせたい。昨年のイミングでは遅いと感じているので、９月ごろ実施は可能か。（詳細別途）

菅野委員）10 月になると技術大会等でサービス本部が引っ張られるが、実際に活動を始めるのは９月からなので、９月の実施は厳しい。

友善委員）早期実施であれば、早めに時期の提案が欲しい。

５）校長コメント（中村）

本日は貴重なご意見頂きました。本当にありがとうございます。今日頂いた皆様方のご意見は、真摯に受け止めて教育の改善につなげていく。

気になっているのは、教えたことが販社で役立っているのか、喜ばれているのか、ということ。第２回の教育課程編成委員会でまた、ご報告ができるようにしたい。

―以上―

2023 年度　第 2 回目　教育課程編成委員会
開催記録

1．日時・場所

2024 年 2 月 26 日（月）14：00～16：40

日産栃木自動車大学校　多目的ルーム

2．参加委員

外部委員	菅野　好一	栃木日産自動車販売（株）営業本部　アフターセールスグループ課長
	友善　直樹	日産プリンス栃木販売（株）営業本部 営業支援グループ課長
	木村　俊宏	（株）茨日ホールディング　人財開発部　教育グループ　係長
	青柳　洋平	栃木県自動車整備振興会　教育技術部　教育課　課長
内部委員	中村　光之	日産栃木自動車大学校　校長
	櫻井　廣行	同上　教頭
	高橋　　真	同上　教育課長
	渡辺　　禎	同上　教務課長
	羽井野　昌能	同上 広報課長
	川上　宏美	同上　学務部長
オブザーバー	本廣　好枝	日産・自動車大学校　学長
	玉生　久典	日産・自動車大学校　教育企画部　部長代理

3．会議次第、議題

1）校長挨拶

2）各課題について論議

（1）２３年度 資格試験結果、及び国家試験 進捗報告

日産資格試験の受験結果報告と国家試験受験対策の進捗について論議。

（2）産学連携の取り組み

1）TS 技術授業の実施報告と、アンケート結果について論議。

2）1 学年販売会社見学、販社との接点増加による効果について論議

（3）国際自動車整備科、　職業実践専門課程申請

FY24 に申請予定の国際自動車整備科の職業実践専門課程に対応する企業協業授業の内容について論議

（4）FY23＃１回教育課程編成委員会の課題進捗

第 1 回委員会における課題の進捗報告。

4．配布資料

上記各課題についてそれぞれ資料あり

以上

議事録

（１）２３年度 資格試験結果、及び国家試験 進捗報告（櫻井）

【日産２級 TS】 全員合格

【日産３級 TS】 全員合格

再試合格者を含む。再試合格は、留学生、日本人共にいる。

低位学生の動機づけ、個別指導に時間を要し、低位学生のフォローが薄くなった。

【日産３級 TA】 全員合格

【国家２級 G･D】

５校の取り組みでは中位を推移。後半の低位には、留学生が多い。

基礎学力、知識の低い学生が低迷。

→対策：分野ごとの問題集解説を実施、PC から見返せるように工夫。過去問から教科書見直しへ誘導中。

【一級】

５校中、中位程度。昨年（全員合格）と比して変わらない。

低位学生が伸びない。暗記に走っているものがいる。

→対策：成績低位を２グループに分け少数で勉強。模擬試験後の見直し徹底。

Q&A･意見

･菅野委員）日産資格は全員受験か？また不合格者は毎回出るのか？再試は今回から可？再試で NG はいないのか？

→A 櫻井）全員受験。不合格者が多いのは今回。再試は２年前から OK。再試 NG はいない。

･菅野委員）販社就職者に不合格者がいるのか。不合格の要因は、

→A 高橋）留学生の一部にいる。不合格になって、重要性に気づいて取り組むことが多い。

･菅野委員）単に資格手当の話では無く、３級整備士のあるべき姿、重要性を伝えてほしい。

→A 櫻井）その時が来たら TS３級整備士のあるべき姿について打ち合わせをさせてほしい。

→A 校長）３級整備士のあるべき姿については共有していくので、資料があればいただきたい。

･木村委員）３級不合格者への対応は

→A 高橋）再試があることは学生には知らせていない。落ちた学生は特例として実施。そこで本気になって頑張る。

再試は同じ問題だが、問題用紙を与えてはいない。

･青柳委員）栃木校は留学生の割合は他校に比して多いのか？（試験の取り組みが難しい理由）

→A 櫻井）５校の中では多い方（愛知校とほぼ同数で３０名ほど）

･友善委員）留学生は、日産資格（再試験有）ならともかく、国家試験対応は難しくないか

→A 高橋）最後まで勉強を続けさせないと難しい。そこまで引っ張っていくのが難しいので、卒業試験で不合格となったことをきっかけに、ラストスパートさせる予定。

（２）産学連携授業の取り組み（高橋）

１）TS 技術授業の反響

･学生の満足度は高い。先輩 TS の姿から具体的な TS のイメージがつかめた様子。

･助言をもらう形から、先輩の作業を見せてもらうことで、その技術に高い関心や憧憬を集めた。

･学生からは、見づらかった、聞こえにくかった、もっと見たかった等意見があり、次年度の改善につなげる。

Q＆A・意見

・友善委員）参加させた GTR メカニックも、学生から、憧憬の目で見られたことは意識高揚に役立った。教えることはもう少し考えてみたい。

・青柳委員）否定的な回答は販社に行かない人か？

→A 高橋）回答者は特定できないアンケートとしている。いろいろな学生がいるので、ネガティブな内容もでる。

→A 櫻井）当日、あまり関心のなさそうな学生がそうかもしれない。

・木村委員）当日準備が時間の制限から不十分だったと聞いている。当日、朝からでも構わないので、3 社で打ち合わせ・準備して、全社異なる内容でやったりしてみてはと考える。

・菅野委員）中央日産からアイデア頂いた際に、2 回ほど事前練習して参加した。どういうところを見せたいかを考えて、お客さんとの流れも入れたが、学生さんの食いつきも良かった。次回は、今回の反省踏まえ、ブラッシュアップしたい。

・中村校長）この取り組みは学生の食いつきが良く、TS の方々の実演は素晴らしい。当校の学生の多くが GTR を好いており、GTR の整備、点検については、更に、学生に応える意味でも、次年度以降も充実させたい。

２）1 学年販売会社見学について

例年、販社を敬遠する学生いたが、今年は、そうした学生がほとんどいなくなった。放課後コーヒーMTG,オープンスクールといった新しい取り組みが、学生にとっての販社のイメージを変え、ハードルを大きく下げた感がある。

早期（6 月）の放課後コーヒーから、販社との接点を設け、10 月には早期採用試験を実施頂くなど、校内の就職への意識が途切れず繋がったことは大きい。オープンスクールで多くの日産販社に接しられたことも良かった。

Q＆A・意見

・菅野委員）今回の採用面接では、受験者の全員に面識があり、再確認の場になった。従来になく面接はやり易かった。受験した学生からは、オープンスクールでの会話などの具体的な話が鮮明に出てきた。

木村委員）2、3 カ月に一度栃木校に来るので、そうしたところで、学生さんとの接点を設けてほしい。

→A 高橋）承知しました。

・青柳委員）非常に良い取り組み、継続してほしい。

・友善委員）卒業生も連れてきたいが、日程感が見えているとよい。

→A 羽井野）今回、販社調整の中で、1 カ月前の日程調整は難しいとの話あり。

→A 中村校長）栃木校は従来、販社就職率は、6 割。これをあげるため、販社にご協力頂いた。学校のアイデアで販社さんにご迷惑をかけたが、次年度は、それを整理して、日程感などはっきりさせてやりたい。販社の方、保護者の方、誰でも学校を見に来ることは大いに奨励し、学生、教員とも見られている意識を持たせたい。こうした取り組みで、今、販社への就職希望は 8 割ほどに伸びている。 今後も、販社にはご協力を頂くようお願いする。

（３）国際自動車整備科、 職業実践専門課程申請（渡辺）

卒業生が 24 年 3 月に出るので、今年 10 月申請、今年度中の認定を目指している。

協業するのは、日産自動車株式会社（日産ビジネスカレッジ）

産学連携授業内容について説明・委員の確認、承認をいただいた。→これをもって、職業実践専門課程に申請する。

Q＆A・意見

・木村委員）この技術能力要件は、自動車整備科と同じものか

→A 渡辺）その通り。

・菅野委員） 5Ｓ をやる意味まで教えているか。現場でも軽視されがちではあるが、ケガの元など重要。学生時代から教えてくれるといい。

→A 渡辺）そこは課題。校長からも重点として教えるよう指示されている。先生の意識改革含めやっていく。
→A 中村校長） 5S は今年、重点活動で教員に展開し次年度も継続していく。外部の皆さんも、実習を見学に来ていただき、整理整頓、安全について指摘して頂きたい。

（4）FY23 #1 回会議の課題進捗報告

1）自動車整備士資格制度の見直しにおける新教科書対応（渡辺）

2027 年 1 月以降の試験で実施。2025 年は、新旧混在の授業。2 級の教科書は 24 年の 10 月発行予定。
3 級教科書（発行済み）を受け、25 年入学に向け準備中（現時点で、方向性はほぼ決定））
24 年 4 月以降、日産 5 校でプロジェクトを組んで、3 級から標準カリキュラムの検討、作成を進め、各校内でも同様にプロジェクトを組み、実際の授業計画に落とし込んでいく。その後 25 年の早期に 2 級の標準カリキュラムを完成させ、各校に落とし込む。

2）自主性の取り組みの踏襲（卒業生アンケートより）

①工学科（桜井）
・3 学年進級後、クラスの行動目標を決める（2 年後の社会人に向けて）→無遅刻、会話重視、報連相
・実際、目標を遵守できない学生もいるが、常にそこに戻していく指導を行っている。

②整備科（高橋）
・授業態度点数制度の実施（0～3）毎授業で採点することを 2 年生で 2 か月トライアルし、1 カ月ごとの平均点を出した。→学生にもフィードバック。
次年度以降が対象学年を広げて
→客観的に姿勢を評価し、低位層の指導の材料にする。中間層は意識づけの材料とする。
→次年度は、4 点（自主性に加点）を設ける。 自主性育成というより、やるべきことをやらせる育成を図る。

3）国際科の日本語教育の質向上（高橋）

・日本語学校（アティスインターナショナル）のからの出張授業を実施（2 時限/週）
※全員対応は不可なので、前期は語学力高い学生を外したが、下期は低い学生を外して担任による個別対応を実施。
・N2 合格 4 名（FY21,22 は各 1 名）と成果が出ている。

4）従業計画への ICT 使用明示をする（渡辺）

3 年はできているが、1，2 年はできていない（記入欄が無く、フォローが不足）
→書式変更とフォロー強化を行う。
コンテンツの共有については、まだ不十分なので、今後、改善（共有）を進めていく。

（5）報告

1）（スポーツメカニクス科の廃止）（中村校長）

学生数の伸び悩みから、26 年度をもって廃止する。

2）24 年度からの頭髪指導の変更（中村校長）

頭髪についてのスタンダード（販社における TS）は、学生に伝えるが、就職の時期になるまでは、従来の様な強制的指導は止めたい（社会の常識や留学生の様に宗教的、文化的背景の違いから、一律的な指導は難しい環境）

無論、安全上必要な指導（長髪で巻き込まれ等）や、あまりに極端な髪型（原色に染める等）は個別に対話して対応する。

（６）学長より（本廣学長）

今後、留学生の増もあり、学校運営は厳しい状況になるが、各委員の皆様には、この場以外でも、積極的に意見を頂くよう、お願いしたい。

―以上―